

平成 22 年度事業報告

平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

(財) 世界宗教者平和会議日本委員会

はじめに

WCRP 日本委員会は、混迷する世界において宗教者として平和の実現を目指し、物質的側面はもとより、特に精神的側面において、国内外で人々が抱える諸問題に積極的に取り組むことを決意し、本年度の事業を実施した。

創設 40 周年の節目を迎えた WCRP 日本委員会は、平城遷都 1300 年記念事業と連携し、『世界を“まほろば”に～シルクロード終着の地、日本から発信する』を総合テーマとして記念事業を開催した。この事業を通して、これまでの 40 年を振り返るとともに、WCRP の使命を再確認し、さらに平和と調和に関わっていく重要な役割を果たすべく、諸宗教間のネットワークや各界との協力を通じて、共にすべてのいのちを守るための活動への決意を新たにした。

また、本年度は公益法人制度改正にともない、WCRP 日本委員会がさらに平和と調和への役割を果たしていくために、WCRP の理念と活動がより多くの諸宗教者に理解され、政治や国際機関など各界との交流や協力の輪が広がっていくよう“より開かれ、より行動する WCRP 日本委員会”を目指しての組織改編が進められた。

さらに、WCRP 国際青年ネットワークが展開した「ARMS DOWN! キャンペーン」へ WCRP 日本委員会も積極的に協力し、核兵器の廃絶を中心とした軍縮と国連ミレニアム開発目標(MDGs)の達成を呼びかけた。併せて、こうした日本委員会の活動や考え方について核拡散防止条約(NPT)再検討会議をはじめとする国際会議で紹介し、平和実現へのメッセージを幅広く発信した。

I. 日本委員会関係

1. 理事会の開催(6月22日、9月25日、1月26日、3月11日)
2. 評議員会の開催(6月22日、9月25日、1月26日、3月11日)
3. 運営委員会の開催(7月30日)
4. 財務委員会の開催(6月3日、8月12日、1月17日)
5. 財務監査(5月27日)
6. 第37回平和のための宗教者研究集会(7月21日)

東京・渋谷にある JICA 地球ひろばの講堂を会場に、「第 37 回平和のための宗教者研究集会」を開催した。「核兵器のない世界をめざして～NPT 再検討会議、ARMS DOWN! から～」をテーマに、WCRP 日本委員会役員、関係者ら約 150 名が参加した。冒頭、宮本けいし事務総長があいさつに立ち、WCRP が創設以来、非武装、核廃絶への取り組みを続けてきたことを紹介。9月に京都、奈良で行われ

る 40 周年記念行事にも触れ、“まほろば” 実現のために、核兵器廃絶に向けて取り組む NGO や国連、各界との連携を深め、平和への取り組みにつなげていきたいと述べた。続いて、WCRP 日本委員会から 40 周年記念行事、ARMS DOWN! の進捗状況、NPT 再検討会議での WCRP の取り組みが報告された。基調講演では、特定非営利活動法人ピースデポ特別顧問の梅林宏道氏、中国新聞社ヒロシマメディアセンター長兼特別編集委員の田城明氏が登壇し、講演を行った。基調講演後、WCRP 国際軍縮安全保障常設委員会委員長の杉谷義純師（評議員、天台宗東叡山寛永寺円珠院住職）と梅林氏、田城氏によりパネルディスカッションが行われた。コーディネーターは神谷昌道師（軍縮安全保障特別委員、立正佼成会ニューヨーク教会長）が務めた。

7. 特別諮問委員会・法人移行のための準備委員会の開催

本年は、5 回にわたって委員会が開催され、一昨年 12 月より施行された公益法人法制度に基づいて、WCRP 日本委員会の組織のあり方について引き続き検討が行われた。2007 年からの検討開始以来、22 回の委員会が開催された。また、1 月 13 日には、委員会で議論されてきたことを庭野日鑑理事長の答申が行われた。1 月 26 日の理事会・評議員会において、法人移行のための準備委員会が設立され、準備が進められた。

8. WCRP 創設 40 周年記念事業の開催

創設 40 周年記念事業を、京都プログラム（9 月 20 日～22 日）、奈良プログラム（9 月 25 日～27 日）、東京プログラム（1 月 26 日）として開催した。開催内容は別紙資料。

9. 協賛・後援事業

〔協力事業〕 WCRP グローバルユースネットワーク主催、WCRP 日本青年部会が主管する「ARMS DOWN！共にすべてのいのちを守るためのキャンペーン」に協力した。

〔後援・協賛事業〕

(1) 5 月 16 日、立正佼成会青年本部主催の「青年の日」に後援した。

(2) 5 月 22 日、「庭野平和財団講演会」に協賛した。

10. チリ地震緊急支援

2月末に起きたチリ地震に対し、日本委員会は平和開発基金から ACT (Action By Churches Together) とカリタスの活動に 30 万円ずつ支援することを決定した。ACT は教派を超えたキリスト教教会の支援組織であり、緊急災害援助や開発途上国の開発援助を世界規模で行っている。同組織のメンバーである FASIC は教会世界奉仕 (Church World Service) やチリ・メソジスト教会と協力し食糧や飲料水、シェルターなどを現地被災者に提供している。

カトリックの国際組織であるカリタスは国連人道問題調整事務所 (OCHA) や他の関係機関と連携し、これまでに食糧 1600 トン、日用品 250 トンを約 52 万人に配布。現地では、教区カリタスが強固なネットワークを活かし、相互にコミュニケーションを取りながら今後の支援について検討している。WCRP 日本委員会は、4月27日に ACT へ、28日にカリタスジャパンの田所事務局長へ支援金を贈呈した。

II. 委員会・部会・研究所

1. 人権委員会

- (1) 在日外国人労働者支援事業支援金贈呈式開催
- (2) 中国孤児救護協力委員会 (韓国) 活動支援
- (3) 委員会の開催
- (4) 学習会の開催

2. 開発・環境委員会

- (1) 委員会の開催
- (2) 国民総幸福量 (GNH) 学習会の開催
- (3) 琵琶湖水質の現地学習会の開催

3. 非武装・和解委員会

- (1) 広島並びに長崎平和祈念式典に参加
- (2) 第 22 回国連軍縮会議参加 (8月25日～27日：さいたま市)
- (3) 軍縮タイムズ発行支援
- (4) 委員会の開催
- (5) NPT 再検討会議に参加
- (6) NPT 学習会の開催

4. 難民委員会

- (1) アフガニスタン教育プロジェクト支援
- (2) 委員会の開催

5. 広報委員会

- (1) 会報の発行
- (2) 「WCRP の歴史」 編纂・発行
- (3) ホームページのリニューアル
- (4) 京都宗教記者クラブとの懇談会開催
- (5) 委員会の開催

6. 平和開発基金運営委員会

- (1) 指定事業5プロジェクト、一般事業5プロジェクトに対し、総額11,963,910円の支援実施

7. 平和研究所

- (1) 第37回平和のための宗教者研究集会の開催支援
- (2) 平成22年度平和大学講座の開催（3月11日：同志社大学）
同志社大学一神教学際研究センターと共催で平和大学講座が同大学神学館チャペルを会場に開催された。WCRP40周年記念事業の総括が宮本けいし事務総長より行われた後、「まほろばの精神と Shared Security～今、諸宗教協力に問われているもの～」と題して、パネルディスカッションが開催された。平和研究所がコーディネーターとパネリストを務めた。コーディネーターを眞田芳憲氏（中央大学名誉教授）とし、黒田壽郎氏（国際大学名誉教授）、藺田稔氏（京都大学名誉教授）、奈良康明氏（駒澤大学名誉教授）、山田経三氏（上智大学名誉教授）がパネリストとして登壇した。
- (3) 所員会議、研究会並びに合宿の開催
「まほろばと Shared Security」をテーマとして、6回にわたる研究会と合宿が開催された。また、昨年度の研究発表を紀要としてまとめ出版した。

8. 青年部会

- (1) 「ARMS DOWN！共にすべてのいのちを守るためのキャンペーン」の実施
- (2) サマーキャンプの開催（8月27日～29日：立正佼成会神戸教会）
- (3) 幹事会の開催
- (4) 総会の開催

9. 婦人部会

- (1) チャリティーバザーの実施 (10月3日: 立正佼成会)
- (2) 役員会の開催
- (3) 総会の開催
- (4) いのちについての学習会の開催

III. 賛助会員

1. WCRP 日本委員会主催「第37回平和のための宗教者研究集会」への参加
2. 40周年記念行事への参画

IV. その他

国際委員会並びに各国委員会との連携

ACRP 執行委員会への参画

聖エジディオ共同体平和の祈りの集いへの参画

韓国宗教平和国際事業団(IPCR)国際セミナーへの参加

KCRP との諸調整

以 上